

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	安全で歩行者等にも優しい道路整備						掲載ページ
							141
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		4,361,540 千円	3,190,498 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	道路計画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民の生活に密着する生活道路の歩道整備を行い、歩行空間の安全性や快適性、利便性の向上を図り、望ましい都市環境の創出を推進します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	市民の生活に密着する生活道路において、歩行空間を確保するための歩道や防護柵の整備を行い、道路の維持修繕を行って、安全で歩行者等にやさしい道路整備を実施します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	暮らしに身近な道路整備	4,869 m	住民要望等に応じて処理	事業統合により実績なし	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	公園や学校周辺、その他地域の活動や市民の生活に密着する生活道路を対象に歩道の整備や防護柵等の設置を実施します。 (最終目標と最終年度)					
	安全で歩行者等にも優しい道路整備	14,625 件	住民要望等に応じて処理	13,795 件	やや遅れ	順調
市民の生活に密着する生活道路において、要望を受け、道路の維持修繕を実施します。 (最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	道路の維持修繕について多くの市民要望を受け、安全な歩行空間を確保するため維持修繕を実施したことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	道路の維持修繕において、緊急時にも対応できるよう緊急業者を選定し、迅速な対応に努めました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
市民の生活に密着する生活道路において、市民要望等を受け、歩行空間を確保するための歩道や防護柵の整備や道路の維持修繕を実施して、安全で歩行者等にやさしい道路整備を推進します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子育てに優しいまちづくり(地域の子育て支援)の推進						掲載ページ		
							141		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		3,747	千円	0	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域ぐるみで子育てを支える取り組みを進めていくため、小学校区単位を基本に、市民センター等を拠点とした子育て支援活動を促進します。				活動実績	10地域に補助金の交付、アドバイザーの派遣、人材育成研修会(9、12月)及び活動事例報告会(3月)を開催しました。採択地域においては、地域の実情に応じた、地域ぐるみの子育て支援活動を展開しました。	
活動計画	平成26年度は10地域を採択し、財政的支援(子育て支援活動経費として5万円を交付)、人的支援(アドバイザーを地域に派遣し子育て支援活動をサポート)、人材育成支援(子育てに関する研修会(年2回実施)や活動事例報告会(年度末実施)を行います。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】		
	支援地域数	20 地域	20 地域	10 地域	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	地域ぐるみで子育てを支えるには、各校区のまちづくり協議会を核としたネットワークによる地域での子育て支援活動の展開が望ましく、地域の実情に応じた子育て支援活動を実施する地域数を拡充していく必要があると考え、支援地域数を活動指標とします。 (最終目標と最終年度)			50.0 %		順調		
(最終目標と最終年度)								

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況については、前年度より対象地域数及び補助金交付金額が減少したものの、地域の実情に応じた様々な子育て支援活動が実施されたことから、順調としました。また、地域が主体となって地域の特色を活かしながら積極的に子育て支援活動に取り組んでいることから、事業目的を達成する上で大変有効であると考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本年度、実施した研修会や活動事例報告会では、支援地域以外からの参加者もあり、本事業についての関心やニーズが高いことが確認されました。このことから、支援地域以外においても、自主的に子育て支援活動へ取り組むこととなれば、効率的に本事業の目的が達成できると考えます。身近な地域で子育てをさせる仕組みをつくるとともに、子育てを地域で支えるという意識を市民に啓発する必要があることから、実施主体としては市が適切であると考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
「子育てに優しいまちづくり推進事業」は平成26年度で終了となりますが、引き続き、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行い、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進めます。早期に北九州市全体に子育て支援活動を実施する地域数を増やしていくことが必要であることから、国の補助金等を活用し、アドバイザーの派遣に力を入れたり、人材育成研修会や活動事例報告会が充実したものになるよう検討します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	バリアフリーのまちづくりの推進						掲載ページ
							141
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		935,018 千円	5,008,024 千円 <small>(通学路の安全対策の推進等の総額。本事業はその一部)</small>	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	道路計画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	急速な少子高齢化の進展に対応するためには、高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりが求められています。本事業は、バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。		活動実績	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させました。	
活動計画	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図っていきます。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	歩道整備延長	5,185 m	1,700 m	3,812 m	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行うことが、歩いて暮らせる街づくりに繋がると考え、歩道の整備延長を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)			224.2 %		
	(最終目標と最終年度)					順調

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展しています。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続することが必要であると考えます。現在、道路計画課の担当係長及び職員が主体的に「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」と調整等を行い、各区において適切なバリアフリー整備に取り組みとともに、東西整備事務所及び各区まちづくり整備課において、歩道整備や歩道の段差解消等の改修を行っています。
	「経済性」「効率性」の分析	本市は平成9年度の小倉都心地区のモデル地区から、市民との協働によるバリアフリーのまちづくりを行っております。現在もバリアフリー化については「まちづくりネットワーク」と現地点検や意見交換会を行いながら、事業を進めています。なお、現在のところ、歩道の新設、改良については他の事業主体は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
平成27年度も引き続き、「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させながらバリアフリー化の推進を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	JR既存駅に対する昇降装置整備支援事業						掲載ページ
							142
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建築都市局
		7,339 千円	0 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	都市交通政策課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	「バリアフリー新法」に基づき、JR駅のバリアフリー化を推進します。あわせて、公共交通であるJR駅をバリアフリー化することで、子どもや高齢者等交通弱者の移動の円滑化を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	安部山公園駅のバリアフリー化に向けた検討及び協議を行います。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	バリアフリー化整備対象駅（5千人以上／日）13駅 [H13～H22]	13 駅	13 駅	13 駅	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	バリアフリー新法施行令、移動等円滑化の促進に関する基本方針（国土交通省）による (13駅整備完了、平成22年度)			100.0 %		
	バリアフリー化整備対象駅（3千人以上／日）2駅 [H23～H32]	-	-	-	やや遅れ	順調
バリアフリー新法施行令、移動等円滑化の促進に関する基本方針改正（国土交通省）[H23.3.31告示]による ※対象駅の2駅は、安部山公園駅及び折尾駅 (最終目標と最終年度)						

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	バリアフリー新法に基づき、一日あたり利用者が5千人以上の駅を対象に、平成22年を目標に、バリアフリー化を進めてきた結果、整備対象である13駅のバリアフリー化が完了しています。また、駅のバリアフリー化を図ることで、子どもや高齢者等にとって、利用しやすい交通施設になり、有効性は高いと考えます。平成26年度は、国や交通事業者等の協議を行ないながら、安部山公園駅舎外のエレベーター設置に必要な国道10号の歩道拡幅整備手法、駅舎・エレベーターの概略設計を行うなど、事業実施に向けて順調に進んでいます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市のほか、国・交通事業者が事業費を負担する制度となっており、可能な限りの財源対策を講じています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
平成23年3月31日告示の「バリアフリー新法」基本方針改正を踏まえながら、適切に対応していきます。また、安部山公園駅について、平成27年度は国や交通事業者をはじめとする関係機関との協議、調整を進めながら、建設局においてエレベーターの実施設計を行うなど、バリアフリー化の早期実現に向けた取り組みを進めます。折尾駅については、折尾総合整備事業の中でバリアフリー化に取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	バリアフリー環境整備促進事業						掲載ページ
							142
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建築都市局
		0 千円	0 千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	建築指導課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	バリアフリー法の認定を受けた建築物で、その建築物内の不特定かつ多数の人が利用する移動システム等(エレベーター、エスカレーター、多機能トイレ等)の整備にかかる費用の一部を補助することにより、高齢者及び障害者等が利用しやすい優良な建築物の整備を促進します。		活動実績	市ホームページへの掲載や窓口での本事業等の情報発信を行いました。平成26年度の本事業の利用はありませんでした。	
活動計画	高齢者及び障害者等が利用しやすい優良な建築物の整備を促進するため、事業等の周知を行い、整備を行う民間事業者に対し、建設費の一部を補助します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	制度の周知と利用促進					
	本事業等に関する情報を、市ホームページ掲載や窓口でのパンフレットの配布等によって情報発信します。 (最終目標と最終年度)	-	-	-	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	(最終目標と最終年度)				順調	
					やや遅れ	順調
					遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度の本事業の利用はありませんでしたが、市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレット配布等を行ったことから、順調としました。民間活力を活用した優良な建築物の整備を促進するため、引き続き本事業等の情報を発信し、事業の普及に努めます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は民間活力を導入した事業であり、より高い成果を得るため、引き続き本事業等の情報を発信し、事業の普及に努めます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き本事業等の情報発信を、市ホームページへの掲載や窓口でのパンフレットの配布等にて行い、事業の普及に努めます。